

## 第19年度 事業報告のまとめ

### 事業の目標

「子どもや地域と関わり、育ち合える環境づくりができる連携が増えた一年」

昨年度から引き続き、「まちに子どもとともにだれもが育ち合える人があふれるように。活動での人間浴から、地域の隅々まで人間浴ができる環境に。」に取り組みました。この一年間は、山科醍醐こどものひろばについて改めて地域の方々に「知ってもらう」「伝える」ことをテーマに各所と各活動がつながり、連携事業や地域行事を一緒に創ることに取り組み、子どもからも地域からも活動、団体について少しでも存在を知っていただくことができました。特に醍醐地域では、複数の学区や醍醐支所との連携で、顔が見える関係が徐々に構築されることにより、「一緒に活動しましょう」「困っているご家族があります」など様々な声がより多く寄せられるようになりました。一方で長く続けてきた活動が、スタッフ体制や予算の兼ね合いもあり見直しの時期にもなってきました。また新しい関係者も増えていく中で、山科醍醐こどものひろばの活動に関わる人の顔や、大事にしてきた「想い」を共有する機会が十分とはいえませんでした。

運営面ではげんきスポットの移転がありましたが、多くの方のご支援とご縁があり無事新拠点で再スタートすることができました。移転は大変でもあります、移転するたびに新たなご縁が広がりますので、新たな拠点を各事業でも活用しながら交流をつくりていきたいと思います。合わせて財政管理など事務局、税理士のみなさんにご協力いただき、規模が大きくなってきた組織の適正な運営体制構築にも務めきました。事務局スタッフにはシステム構築から変更する作業負担、各事業にも決算作業などの負担をお掛けしました。まだまだ不十分ではありますが、今後も地域のなかで子どもと活動を作り続けていける組織としてあれらよう、この土台づくりには引き続き取り組んでまいります。

以下は、前年度計画の軸に対しての報告となります。

#### ①山科醍醐こどものひろばがだれもが活かせる方法の打ち出し

まずは、事業規模が大きくなってきたことに対する財務整理や管理の見直しについて、外部の方や税理士事務所からもご協力いただき、管理のシステム開発とその運用について取り組みました。システムとしては構築できたものの、これまでの運用ルールや実際の事務の流れなどの整備が不十分であり、さらに運用への改善に取り組む必要があります。一方でフェスタ以外では各事業が交流、意見を交える機会がもてなかつたため、その部分は新年度優先して取り組みたいと思います。

#### ②子どもが安心してふれあえる人がまちにあふれるアクション

山科、醍醐地域での出前授業や土曜教室、放課後連携といった形、アンケート調査での連携、各学校での広報協力、自治会などの講演など、地域のなかでの連携事業だけでなく、直接お会いし、お話をさせていただく機会も増えたことで、これまで以上に、「こどものひろば」の想いや姿勢が地域の方、先生方、役所の方などに伝わった一年となりました。さらに学習会などの事業では連携の相談も増えているため、さらに進めていきたいと思います。

#### ③活動実施場所の拡大（開催エリアを意識）

げんきスポットの移転を終えることができ、新しい地域での関係づくりが始まっています。②でも触れておりますが、連携エリアの拡充は進んでいますが、その分、スタッフ体制などの基盤整備は急務になっているため、職員体制や一緒に取り組みたい方々への声かけを行なっていきたいです。

#### ④ボランティア中心事業と専門性が必要な事業など各事業の連携

フェスタを中心に、全事業や一部の事業連携などができる部分が少し出てきているものの、財務など基盤整備などに力を注いだ分、事業連携ではあまり取り組むことができなかつたです。事業として抱える運営課題と一緒に取り組む必要性がでている点もあることから、新年度での連携と、必要に応じ、別法人の設立（運営体制を分ける）といったことも本格的に取り組み、今後の長期的に安定して事業が行なえる基盤づくりにも着手したいと思います。

#### ⑤地域連携（全事業）・訪問型活動（特に課題解決型事業）の充実

昨年度再開したことでもフェスタだけでなく、つどいのひろばの拡充事業や各事業の強みを連携先や依頼先、地域イベントで発揮する機会に恵まれているため、今後も可能な範囲で充実を図ると共に、現状、実践できるスタッフに限りもあるため、より多くの人たちが関わり合い、地域に出向くことができる体制づくりも行なっていきます。

#### ⑥会員・ボランティアの交流強化（会員数を増やす。）

あまり動くことができず従来のつながりを維持することと、つながりを生かした活動づくりというところまでで実際の会員数が増えるということはわずかでした。地域の方々と様々な活動をつくっていくためにもさらに、地域のなかの支援会員が増えるような動きが必要と考えています。

#### ⑦全小学校区で子どもと出会う仕組みづくり

山科・醍醐地域での小学校ではヒアリングやアンケートといった調査などを行なうことができました。醍醐地域では、社会福祉協議会、民生児童委員連絡協議会（醍醐ブロック）、区役所などとの連携により、小学校区での子どもの活動づくりも始まりだしており、さらに定着や他学区への展開に向けた体制づくりが必要です。

法人全体 <総会ならびに会議報告>

**【第 19 年度通常総会】**

日時・場所 2017 年 7 月 23 日（日） 13：00～16：00 本願寺山科別院 多目的会館

審議事項 第 1 号議案 議事録署名人選出の件

第 2 号議案 第 18 年度事業経過報告承認の件

第 3 号議案 第 18 年度事業活動決算承認の件

第 4 号議案 第 19 年度事業計画承認の件

第 5 号議案 第 19 年度事業活動予算承認の件

第 6 号議案 役員報酬承認の件

第 7 号議案 定款変更の件

第 8 号議案 役員選出の件

**【理事会】**

理事 10 人、監事 2 人で構成。

会 場 山科醍醐こどものひろば内「こども生活支援センター」にて開催

開催日 2017 年 6 月 24 日(土) 9 月 16 日(土)

2018 年 3 月 24 日(土) 5 月 20 日(日)

**【事務局会議】**

法人事務に関して概ね月 1 回程実施し、業務遂行にあたった。

## 第19年度 各事業報告

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	当初の予算額 (千円)	決算額 (千円)
舞台芸術鑑賞活動	山科醍醐こどもの創作劇 演劇部ばつぶ・こーん公演	2018/7/8 8/23 9/3	同和園 安朱保育園 香東園	4	地域の子どもと大人のべ350人	—	—
子どもが自ら創る体験活動事業	Jr. キャンプ 小学生3年～中学3年対象の2泊3日のキャンプや年間を通じての野外体験活動を行う。	通年	地域一円	5	地域の子ども40人	370	366
	こどもフェスタ 当法人主催の子ども主体の「祭典」を実施する。	4月29日	本願寺 山科別院	170	地域の子どもと大人250組	—	—
	わんぱくクラブ 幼児・低学年の子ども達を対象に、舞台鑑賞や野外活動を実施する。	通年	地域一円	9	地域の子ども30人	660	682
	山科醍醐こどもの創作劇(演劇部 ばつぶ・こーん) 小学生から大人までの参加者が創る創作劇の実施や、ワークショップを行う。	通年	社会福祉法人 同和園他	2	地域の子どもと大人のべ100人	100	1,669
	町たんけん 地域を知り、その中の出会いから人と人がつながり、より良い地域になることを目指す。山科かるたや、ガイドブックを普及させ、有効活用できるように、小学校を巻き込んだ活動を始める。 ※山科“きずな”支援事業補助金	通年(小学生との 町たんけん活動は 夏～春)	地域一円	10人 (スタッフ・ ボランティア・ 講師)	小学生13人 山科かるた冊子を 幼稚・児童・区民 約1500名に配布 学校訪問参加児童 数約120人	632 (助成金200)	632 (助成金191)
子育てサポート事業	あそびっこクラブ 未就園児を持つ親と、その子ども達のサポート活動。地域の保育所やお寺を会場にして活動する。同窓会として親子で集う場を設ける。	通年	地域一円	4人	家族15組	110	74
	げんきスポット0-3(ぜろさん) 未就園児を持つ母と、その子ども達のサポートを常設会場「げんきスポット」にて実施する。屋根のある公園を目指す。 ※京都市の委託事業	毎週火～土曜日	げんきスポット	スタッフ 8人 ボランティア 13人	地域の子どもと大人のべ6000人	6325 (委託金6025)	6646 (委託金6025)
	楽習サポートのびのび 集団活動が苦手な子どもや、学習機会の少ない子ども、また経済的原因で体験活動の機会がない子どもへの個別(生活・学習・余暇)支援事業。	通年	地域一円	40人	子ども:のべ298人	—	—
	子どもの貧困対策事業 集団活動が苦手な子どもや、学習機会の少ない子ども、また経済的原因で体験活動の機会がない子どもへの個別(生活・学習・余暇)支援事業。 ※京都地域創造基金事業指定助成事業	通年	地域一円	40人	子ども:のべ298人	5549 (助成金4099)	1607 (助成金1573)

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	当初の予算額 (千円)	決算額 (千円)
子育てサポート事業	<u>ひとり親家庭等への生活・学習・居場所サポート事業(子どもの貧困対策事業)</u> 伏見区醍醐・小栗栖地域を中心に、小学校高学年のある子どもとその家族へのサポートを行う。 ※京都府委託金事業	通年	地域一円	40人	子ども:のべ298人 保護者:のべ11人	6296 (委託金6296)	8250 (委託金8250)
	<u>外部保育受入事業</u> 外部団体からの保育依頼を受け入れる。	通年	京都一円	5	—	—	—
ボランティアサポート事業	<u>ボランティア・研修部</u> ボランティア希望者の、各事業へのコーディネートを行なった。	通年	当法人事務所	4	—	—	—
	<u>講師派遣・インターンシップ受入事業</u> 当法人スタッフの講師派遣及び当法人におけるインターン希望者の受入を行う。	通年	地域一円	4	—	—	—
	<u>のびのび@たいむ</u> のびのび事業の利用を終えた高校生等の居場所とボランティア推進事業。	通年	地域一円	5	のべ60人	—	—
広報・出版事業	<u>コッペパン</u> 広報誌「コッペパン」の発行。 ※共同募金	季刊	—	2	1,000部を4回	40 (助成金30)	30 (助成金30)
	<u>ひろばつうしん</u> 会員向け情報誌「ひろばつうしん」の発行。 イベントや活動の参加募集チラシ、外部団体のチラシなども発送。	月刊	—	—	150部を12回	—	—
	<u>ひろばの本</u> 「貧困とひとりぼっちのないまち」の頒布を通じて、ひろばの広報や社会への啓発を進める	通年	—	—	—	801	—
	<u>サポートBOOK</u> 「子どもの貧困課題に地域で取り組む支援者のアクションサポートBOOK」の制作、頒布。	通年	—	—	—	200	—
	<u>ホームページ</u> 当法人におけるホームページの定期的な更新情報の発信及び、基本情報の公開を行う。	通年	—	—	—	—	—
ネットワークづくり事業	<u>分野連携ボランティアネットワーク事業</u> 当法人登録ボランティアと子ども分野の活動団体とのネットワークづくりを行う。	通年	—	—	—	—	—
	<u>みんなの家</u> フリースペースとして開放。 (主催:社会福祉協議会)	第1、第3、第5 月曜日	こども生活支援センター	2	—	—	—
	<u>山科子育て応援団</u> 社会福祉協議会を事務所として山科で子育てサークルや子育て支援をしている諸団体との交流を行う。子育て支援サロンを開催する。	6月 7月 10月 12月 2月	社会福祉協議会 他	11	のべ100人	—	—

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	当初の予算額 (千円)	決算額 (千円)
ネットワーク づくり事業	<u>勧修中学校区 こどもの学びサ ポートプロジェクト</u> 山科青少年活動センター、山科区 社会福祉協議会、勧修中学校等 連携事業 ※俱進会助成事業	通年	勧修中学校区	3	京都市立勧修中學 校の生徒33名	500 (助成金500)	505 (助成金500)
	<u>遊びのアウトリーチ事業</u> 小学校の放課後に、大学生や地 域の方と遊びを通して、関わる機 会をつくる。	通年	地域小学校	1	のべ400人	100	119
	<u>京都市子どもの居場所づくりアド バイザー事業</u> 子どもの居場所づくりをしている個 人・団体への相談・研修を行なう。 ※京都市の委託事業	通年	京都市内	5	のべ77回	—	4268 (委託金4268)
	<u>中3勉強会(おぐりす・だいご)</u> 生活保護受給者等中学生学習支 援プログラム。	通年	醍醐事務所 トハウス	17人	7人 4人	423	1,115
	<u>きょうと北部演劇祭り</u> 演劇部ぽっぷ・こーん公演 「きつねの森の演芸会～宮沢賢 治童話より～」	10月29日	夜久野ふれあい プラザ	4	200人	—	—
	<u>やまびこーん演劇祭</u> 演劇部ぽっぷ・こーん公演 「きつねの森の演芸会～宮沢賢 治童話より～」	11月26日	西陣文化セン ター	4	200人	—	—
	<u>第39回Kyoto演劇フェスティバル</u> 演劇部ぽっぷ・こーん公演 「きつねの森の演芸会～宮沢賢 治童話より～」	2月17日	京都府立文化芸 術会館	4	400人	—	—
	<u>企業との連携</u> 企業からのボランティア体験の受 け入れや、イベントでのボランティ ア呼びかけなど。	通年	—	2	—	—	—
	<u>らんらんおでかけひろば</u> 会員間の交流を図るためのお出 かけ企画。	通年	◎みささぎの森に いこう ◎京 菓子手作り体験 と三十三間堂見 学 ◎みささぎの森と 大文字山にいこう	2	会員:のべ34人	10	10